

リハビリテーション学院創立 40 周年記念行事を開催して

国立病院機構東名古屋病院附属リハビリテーション学院

理学療法学科 教育主事 近藤 登

作業療法学科 教育主事 奥 登貴子

当リハビリテーション学院は本年1月26日（土）に創立40周年記念行事として、ウインクあいちにて元中日ドラゴンズ選手で元二軍監督、現在は野球解説者の井上一樹様を迎えて、「チーム力 個人力と組織力」をテーマとした記念講演会、キャッスルプラザにて記念式典、祝賀会を挙行し、来賓38名を含む総勢232名の参加者で華やかに行われた。そして各関係諸機関に感謝の意を表するとともに、今後も国立病院機構唯一のリハビリテーション学院としての重要な役割を担っていくことを内外にアピールいたしました。本稿では40周年記念行事の様子と当学院を紹介させていただきます。

沿革

国立病院附属リハ学院は、昭和38年5月に国立療養所東京病院にわが国初の養成校として開校されたのを皮きりとして、当学院は、昭和54年4月4日に東海地方としては初めての養成校として開設されました。昭和57年までに国立病院・療養所附属の学院は9校が設置されましたが、平成15年12月に国立病院・療養所附属養成施設の再編成により当学院を除いて閉校が決定され、現在では、当学院が国立病院機構内に唯一存続する養成施設となり、平成11年に創立20周年行事、平成21年には創立30周年記念行事が行われ、そして今回創立40周年を迎えました。



(リハ学院全景)



(記念式後の記念撮影)

〔記念式典〕

当日は、国立病院機構本部から古都賢一副理事長および東海北陸グループ永井宏和参事のご臨席をいただくとともに、豊橋医療センター、鈴鹿病院を始めとして多くの実習施設長や長年にわたって学院運営に協力いただいた関係者を招待し、ご祝辞をいただきました。

古都賢一副理事長からの楠岡英雄理事長

の祝辞の紹介では、この40年間で卒業生は日進月歩する医療の場、さらにはアカデミアや行政など国立病院機構の内外での活躍を喜ばしく思う。その中でわが国は少子高齢化が進むなかで住み慣れた地域で暮らせることが求められ、在宅での質を向上させるためにリハビリテーションを適切に実施し、疾病からの早期回復や生活の質の維持・向上を図るのに重要な役割を果たす優秀な理学療法士・作業療法士の育成を東名古屋病院附属リハビリテーション学院に期待することなどが紹介されました。

勤続表彰では永年にわたり非常勤外部講師を務めていただいている4名の先生方への感謝状および記念品の贈呈が今井常夫学院長より行われました。

【今後の運営方針】

今井常夫学院長の式辞では、当学院の歴史について述べられ、東海北陸地区で最も古く、国立病院機構で唯一残っている養成校であり、各分野で当学院の卒業生が幅広く活躍していることに触れ、当院においてもリハビリテーション部門の現状を踏まえ、当学院の卒業生が多数活躍していることについて述べられた。そのような卒業生の活躍をぜひ見てもらい、リハビリテーション学院の必要性を理解してもらい、今後リハビリテーション学院が継続し、この地域ならびに国立病院機構の医療に貢献していくことを願っていると力強く述べられた。



【当学院の紹介】

当学院の教育目標は、医療の一翼を担う専門職に従事するものとして、医の倫理に基づいた幅広い人格形成と社会のニーズに対応できる有能な人材の育成を図ることにあります。特徴としては東名古屋病院及び附設のリハビリテーションセンターとの連携により、早期より臨床に触れる機会が多く用意されていることが最大の特徴である。1年次より病院の管理者として病院長、副院長、看護部長、事務部長、各職場長の講義、放射線科、検査科、薬剤科、病棟、リハビリテーション科の見学、2年次では疾患学を各診療科の医師が行い、授業においてもリハビリテーションセンターでの実習が組まれているとともに、東名古屋病院および近隣の国立病院機構の理学療法士、作業療法士の講義も行われている。臨床実習では東名古屋病院を始め、全国の国立病院機構、地域の病院での実習施設よりご協力をいただきながら、総合病院、小児施設をはじめ幅広い分野の疾患を経験できるなかで教員一同が学生との対話を重視した個別指導やグループ活動を駆使しながら、確実な知識、基本的な技術、優れた人間関係能力を目指して教育にあたっております。



この10年の主な出来事としては平成26年にリハビリテーション教育評価機構の書類審査と実地調査を受け平成31年3月まで認定されております。そして平成30年の秋には再度審査を受けています。教育評価機構とは全国リハビリテーション学校協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会とともに、リハビリテーション教育の質の向上、充実のため、評価システムを構築して中立的な第三者機関として教育評価を行う組織であります

平成27年4月1日付で両学科とも専門実践教育訓練給付金の対象となる厚生労働大臣指定講座の指定として認定され、平成30年には理学療法学科は再認定されています。これは国家試験受験率、合格率、就職率、在職率等数々の一定条件を満たす等の要件がありこの制度は平成26年10月より教育訓練給付金が拡充され、中長期的なキャリア形成を支援するために「専門実践教育訓練」が創設され、厚生労働省が支援し雇用の安定と再就職促進を図る目的とした雇用保険の給付制度です。

平成28年2月19日に文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に認定されました。これは専門学校のうち、企業等と密接に連携して最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り

組む学科を文部科学大臣が認定するもので、認定要件としては業界・職能団体の役職員、専攻分野に関する学会や学術機関の有識者などの構成員で、年に2回の教育課程編成委員会、年に1回の学校関係者評価委員会を行うとともに、自己評価に加え外部評価結果を公表し、教員に対して組織的研修を実施するなどいくつかの要件があります。

また、国立病院機構で唯一残されたリハビリテーション学院の重要な役割として、全国の国立病院機構に勤務する理学療法士・作業療法士を対象とした機構本部主催の専門研修を平成21年から実施して10回を終えております。

国家試験の開学から37期生までの合格率は全国平均を上回り、理学療法学科98.6%、作業療法学科95.6%です。これは講師の先生方を始め実習指導者の先生方の暖かくきめ細やかなご指導の賜のおかげと心から感謝申し上げます。(表1)

1332名の卒業生の主な活躍の場は、国立病院機構を始めとして国公立病院や民間病院における臨床現場で活躍している一方で、当学院を含めた教育機関で後進の指導にもあたっております。(表2)この10年間で国立病院機構への就職率は理学療法学科で41.5%、作業療法学科で40.6%であります(表2)。

学生には、国立病院機構の魅力を伝え、国立病院機構への就職率を高めることによって国立病院機構全体のリハビリテーション医療の向上に寄与できるよう努めてまいりたいと考えております。

[表1：当学院学生の過去30年間の国家試験合格率(%)]

項目	理学療法士	作業療法士
全国平均	91.5	88.0
本学院	98.6	95.6

[表2：卒業生の主な活躍の場]

施設種類	人数	就職先
国立病院機構	299	東名古屋病院、名古屋医療センター、静岡医療センター、三重中央医療センター、石川病院、医王病院、東埼玉病院、下総精神医療センター、まつもと医療センター、福岡東医療センター等
公立病院	286	市立四日市病院、市立恵那病院、小牧市民病院、名古屋第二赤十字病院、済生会静岡医療福祉センター等
民間病院	439	刈谷豊田総合病院、聖霊病院、大同病院等
教育機関	56	名古屋大学医学部保健学科、鹿児島大学、秋田大学等
その他	252	海外、自宅等
卒業生合計	1332	